

改訂日 2025/04/01

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	トクヤマ デントジア (原液／印象体除菌スプレー)
供給者の会社名称	株式会社トクヤマデンタル
住所	〒314-0255 茨城県神栖市砂山26
担当部門	品質統括室 品質保証グループ
電話番号	0479-46-4708
FAX番号	0479-46-3568
緊急連絡電話番号	TEL: 0479-46-4708 FAX: 0479-46-3568
推奨用途	歯科用の除菌剤
使用上の制限	推奨用途以外への使用を禁止する。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

GHS分類に該当するデータは得られていない。

GHSラベル要素

情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
次亜塩素酸	<0.1	HClO	—	1-(3)-91	7790-92-3
水	>90	H ₂ O	—	11-(4)-1005, 9-3873	7732-18-5

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
水で口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水を飲ませる。直ちに医師の診断を受ける。被災者の意識が無い場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、泡消火材、散水、二酸化炭素、砂。
周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

使ってはならない消火剤

特になし。周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

火災時の特有の危険有害性

火災時に、刺激性もしくは腐食性もしくは毒性のあるガスを発生するおそれがある。

火災時のガスや蒸気には、塩素等の有毒ガスが含まれる。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。 ガスや蒸気に塩素等の有毒ガスが含まれるので、適切な呼吸器用保護具を着用し、吸入を避ける。	
6. 漏出時の措置	人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材		作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。 必要に応じた換気を確保する。 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
二次災害の防止策		
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	技術的対策	適切な保護具を着用する。 当該製品の注意事項等情報(添付文書)の【使用上の注意】、取扱説明書、販売包装(化粧箱)、又は直接容器等に記載した通りに、保護具を使用する。
	安全取扱注意事項	蒸気、粉じんが発生する場合は、換気設備や局所排気装置を設置する。 表示事項を読み、理解するまで取り扱わない。表示事項を参考に、原液を希釈して使用する。 眼に入れないこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 粉じんの吸入を避けること。 取扱い後は、よく手を洗うこと。 汚染された作業衣は、作業場から出さないこと。 粉砕、衝撃、摩擦のような取扱いをしないこと。 飲食又は喫煙をしないこと。 換気の良い場所でのみ使用すること。 使用済みの製品を、元の容器に戻さないこと。
保管	接触回避 安全な保管条件	高温、多湿、直射日光を避ける。 当該製品の注意事項等情報(添付文書)の【保管方法】、取扱説明書、販売包装(化粧箱)、又は直接容器等に記載した通りに、製品を保管する。 水漏れを避ける。湿気の少ない場所に保管する。 患者や子供の手が届かないところに保管する。 高温多湿・直射日光を避けて保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置 設備対策	保護具	
	呼吸用保護具	蒸気、粉じんが発生する場合は、換気設備や局所排気装置を設置する。 リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。
	手の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。
	眼、顔面の保護具	リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。

皮膚及び身体の
保護具

リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物
を選択し、着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
形状	液体
色	無色透明
臭い	データなし
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	100℃
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界 下限	データなし
／可燃限界 上限	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	2.7～5.5
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	推奨する保管及び取扱において、推奨用途以外の反応は 起きない。
化学的安定性	強酸と反応して塩素が生成する。 環境光(直射日光)で、分解する。 推奨する保管及び取扱において、安定である。
危険有害反応可能性	強酸と反応して塩素が生成する。
避けるべき条件	金属との接触を避ける。 凍結を避ける。 高温、多湿、直射日光を避ける。
混触危険物質	酸化剤、過酸化物質、強酸、強塩基、還元性物質、金属。
危険有害な分解生成物	強酸と接触して、塩素が生成する。 火災や加熱により、有害な蒸気やガス(一酸化炭素、二酸化炭素等)が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	分類できない。
	経皮	データ不足のため分類できない。
	吸入	(気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		分類できない。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		分類できない。
呼吸器感作性		分類できない。
皮膚感作性		分類できない。
生殖細胞変異原性		分類できない。

発がん性
生殖毒性

分類できない。
(生殖毒性)
分類できない。
(生殖毒性・授乳影響)
データ不足のため分類できない。
分類できない。
分類できない。
データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
誤えん有害性

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)
水生環境有害性 長期(慢性)
生態毒性
残留性・分解性
生体蓄積性
土壌中の移動性
オゾン層への有害性

分類できない。
分類できない。
データなし
データなし
データなし
データなし
データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県／市町村に法規則があれば、その法規則に従い廃棄すること。

汚染容器及び包装

法規制に従い、廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報
Marine Pollutant
Liquid Substance
Transported in Bulk
According to MARPOL
73/78, Annex II, the
IBC Code

非該当
Not applicable
Not applicable

国内規制

航空規制情報
陸上規制
海上規制情報
海洋汚染物質
MARPOL 73/78 附属
書II 及びIBC コードに
よるばら積み輸送され
る液体物質

非該当
非該当
非該当
非該当
非該当

緊急時応急措置指針番号

航空規制情報

非該当
なし

15. 適用法令

労働安全衛生法
毒物及び劇物取締法
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
消防法

非該当
非該当
非該当
非危険物

16. その他の情報

連絡先
参考文献

情報なし
[1] GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ー
ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
(JIS Z 7253:2019) 日本規格協会(2019年5月25日発行)
[2] GHS分類結果データベース (独)製品評価技術基盤
機構ホームページ

その他

[3] GHS文書 改訂第4版、事業者向けGHS分類ガイダンス第3版(平成25年7月) 経済産業省製造産業局化学物質管理課ホームページ

[4] GHSに基づく化学品の分類方法(JIS Z 7252:2019)日本規格協会(2019年5月25日発行)

ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報や当社所有の知見によるものですが、これらのデータや評価はいかなる保証をするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

当該物の成分の含有量が当社の営業上の秘密に該当する場合や製造上の調整幅を必要とする場合は、成分の含有量を10%刻みの濃度範囲で記載しています。